

第260回鳳雛講座 令和7年12月17日(水)

17日(水)に今年度7回目の鳳雛講座を行いました。講師は大館市にあるお菓子屋さんパティスリーメッスナー代表でパティシエの藤田雄佑さんが務めてくださいました。お菓子作りだけではなく、ご自分の生い立ちや給料に関するこまで包み隠さず話してください、参加した生徒たちは飽きることなく大変熱心に聞き入っていました。

現場で働く職業人から貴重なお話を聞くことができる他校にはない一中の鳳雛講座。残すは1月のラスト1回となります。生徒にはぜひ、積極的に参加することで将来における選択肢を広げてほしいと思います。

○講話の内容

・藤田さんとパティスリーメッスナー

藤田さんは、関東などの洋菓子店で洋菓子作りを学んだ。その後、地元大館の洋菓子屋で就職を考えたが、雇用がなかった。そこで大館地域おこし協力隊に入る。協力隊に入るまでは販売に携わることはなく、厨房に入ることが多かった。しかし、協力隊を通して様々な人と関わっていくコミュニケーション能力を高めることができた。また、人とのつながりも増えた。そのことが現在の経営に生きている。

更に経営をしていく上で、たくさんコンテストを受けるという挑戦も行った。しかし、コンテストで優勝したからと言ってお店にたくさんの利益があるわけではない。むしろ、コンテストに落ちることで次のコンテストに向かうモチベーションに繋がったり、優勝を目指してお菓子を作る過程に様々な学ぶことがあったりと、コンテストを受けるその過程に価値があるとお話をされていた。

また、パティスリーメッスナーでは、地域食材を活用した商品をメインに作っている。秋田で経営をするということは、そもそも顧客となる人口の母数が少なく、リターンよりリスクの方が多い。それでも、秋田で働きたい、恩返しをしたいという思いから、秋田の食材や素材を形にしたいというこだわりに繋がっている。

・終わりに

自分の人生のスタートラインは高校生の時である。どこにスタートラインがあるのか分からぬのが人生だと思う。一度きりの人生を楽しみましょう。

○生徒の感想から

・秋田県の素材を使いながらパティシエという職業を続けているのがすごいと思った。二極論ではなく様々な可能性を考えていくことが大事だと分かった。自分も好きなことを仕事にして人生を楽しみたいと思った。

・生き残る者は変化できる者という言葉が心に残った。自分も物事を柔軟に考えつつ、たくさん挑戦して経験を積みたいと思った。

・秋田で起業することの難しさを学べた。受検勉強をしているとどうしても白黒つけようと考えてしまいがちだが、講話を聞いて選択肢を広げる考え方も分かった。これから人生のスタートラインを探していくたい。





